

## 第 12 回(2014 年)

### マーサーMPA アワード受賞運用プロダクト概要

## 目次

1. マーサーMPA アワード受賞会社一覧.....	I
2. マーサーMPA アワードとは？ .....	III
3. 国内株式大型部門受賞運用プロダクト概要 .....	IV
• 日興アセットマネジメント株式会社 .....	IV
• フィデリティ投信株式会社.....	V
• 株式会社 リそな銀行 .....	VI
• スパークス・アセット・マネジメント株式会社.....	VII
• 野村アセットマネジメント株式会社 .....	VIII
• 大和住銀投信投資顧問株式会社.....	IX
• アバディーン投信投資顧問株式会社 .....	X
4. 外国株式部門受賞運用プロダクト概要 .....	XI
• ラッセル・インベストメント株式会社.....	XI
• ウェリントン・インターナショナル・マネージメント・カンパニー・ピーティーイー・リミテッド.....	XII
• 三菱UFJ信託銀行 .....	XIII
5. 外国債券部門受賞運用プロダクト概要 .....	XIV
• ラッセル・インベストメント株式会社.....	XIV
• ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社.....	XV
• ピムコジャパンリミテッド .....	XVI
6. 国内債券部門受賞運用プロダクト概要 .....	XVII
• 日興アセットマネジメント株式会社 .....	XVII
• 明治安田アセットマネジメント株式会社 .....	XVIII
• 三井住友信託銀行 .....	XIX
7. 国内株中小型部門受賞運用プロダクト概要 .....	XX
• パインブリッジ・インベストメンツ株式会社.....	XX
• イーストスプリング・インベストメンツ株式会社 .....	XXI
• 三井住友アセットマネジメント株式会社 .....	XXII

## マーサーMPA アワード受賞会社一覧

第12回マーサーMPA アワード受賞会社は次の表の通りです(カテゴリー内はあいうえお順)。本書は、受賞運用会社から提供された情報をもとに、各運用プロダクトの概要をマーサーがまとめたものです(カテゴリー内での掲載順は、原則的に情報提供の順です)。なお今回より、昨年まで表彰対象としていた、国内株式サブカテゴリー部門であるコア、バリュー、グロースの3部門を表彰対象から外しております。

### 国内株式大型部門 (5年)

アパディーン投信投資顧問	野村アセットマネジメント
スパークス・アセット・マネジメント	フィデリティ投信
大和住銀投信投資顧問	みずほ信託銀行
日興アセットマネジメント	りそな銀行

### 外国株式部門 (5年)

ウエリントン・インターナショナル・マネージメント	三菱UFJ信託銀行
MFS インベストメント・マネジメント	ラッセル・インベストメント

### 外国債券部門 (5年)

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント	ラッセル・インベストメント
ピムコジャパンリミテッド	

### 国内債券部門 (3年)

日興アセットマネジメント	明治安田アセットマネジメント
三井住友信託銀行	

### 国内株式中小型部門 (3年)

イーストスプリング・インベストメンツ	三井住友アセットマネジメント
パインブリッジ・インベストメンツ	

## 免責事項

マーサーMPA アワードは過去の定量結果だけによる表彰であり、マーサーが顧客に運用プロダクトを推薦する場合に利用する定性評価とは何の関係もないものです。運用プロダクトのリターン・データは運用報酬控除前であり、顧客が利用する際には、運用報酬の違いを考慮する必要がありますので、表彰対象と同じ期間に表彰された運用プロダクトを使っても、表彰と同一の結果を受けられるわけではありません。また、表彰に利用した評価基準が適切な方法であると保証するものではありませんし、表彰のために使ったデータや計算が正しいものであると保証するものでもありません。マーサーはこのアワードを受けた運用会社について何の保証をするものでも責任を持つわけではありません。過去の実績は将来のリターンを保証するものではありません。

本書でまとめた各社の運用概要は真実であると思われる内容を掲載していますが、事実と異なるとしてもマーサーが責任を負うわけではありません。また、マーサーはこれらの運用を推薦、あるいは媒介・販売する意図を持って掲載しているわけではありません。

## 本件に関する問い合わせ先

マーサージャパン株式会社

資産運用コンサルティング

03-5354-1461(代表) [investment.japan@mercer.com](mailto:investment.japan@mercer.com)

# 2

---

## マーサーMPA アワードとは？

マーサーMPA アワードとは、マーサー ジャパンが日本における企業年金あるいは機関投資家向けのコンサルティング・サービスを提供するために、収集・管理している円ベースの運用リターンの中から、優れた結果を達成した運用プロダクトを讃えるものです。賞の名前は、マーサーで運用リターンを分析するソフトウェアの名前(MPA=Manager Performance Analytics)をとったものです。

アワードの対象とする円ベースの運用リターンは、マーサーのグローバルなデータベースである GIMD に運用機関が入力したデータの中から、マーサージャパンが選定してパフォーマンス・ユニバースに登録したものを対象としています。ユニバースへ登録されるリターンは運用機関が過去に溯って入力したデータは対象としていません。アワードの選定基準は以下のとおりです。

### 選定基準

- 企業年金運用における主要なカテゴリー毎に5年あるいは3年で、トータル・リターンと代表的なインデックスに対するインフォメーション・レシオをそれぞれ基準化した数字を合計して、カテゴリー内の上位10%(但し、最大8プロダクトまで)あるいは上位3位のファンドの多いほうを選定しています(なお、国内株小型、国内債券と外国債券はトータル・リターンのみ)。
- 選定基準日時点におけるデータの入力
- 日本国内に拠点を持つ運用機関が提供する運用プロダクト
- 受賞意思の表明
- 登録運用リターンの正確性の確認
- 表彰対象期間に対象運用プロダクトで継続的に5億円以上の顧客資産額
- 対象カテゴリーの特性に合致(対象期間の対象ユニバースの資産の組み入れ比率が最低時点でも80%以上でかつ平均で90%以上など)
- 実際に独立した運用としてのリターンの計算(グローバル株式運用で日本株を除くなどの計算は不可)

# 3

## 国内株式大型部門受賞運用プロダクト概要

### 日興アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	日興 AM 日本株エンハンスインデックス戦略
会社概要	日興アセットマネジメントは、1999年4月、日興証券投資信託委託株式会社と国内外の年金運用で高い実績を誇る日興国際投資顧問株式会社が合併、発足し、50年超の歴史を有します。2013年12月現在、英国、米国、シンガポール、香港等海外現地法人等を含む従業員総数は約1,200名を擁し、17兆円を超える受託資産残高を運用しています。
運用手法の概要・特徴	ベンチマークに対し中長期的に安定した超過リターンの獲得を目指すクオンツ運用です。 当社独自開発の期待アルファモデル「N.ALPHA」および運用サポートモデル「N.シリーズ」を活用し、期待アルファ算出と信用リスクや取引コストも考慮した効率的なポートフォリオ構築を行います。 「N.ALPHA」は、理論株価の上昇を捉えるリスクプレミアム・理論株価への収束を捉えるミス・プライシング・投資家の行動特性を捉える行動ファイナンスといった3つの独立したアプローチから長期に亘り安定して有効な期待アルファを実現します。
ポートフォリオのリスク特性	ベンチマーク : TOPIX(配当込み) トラッキング・エラー : 1~2%程度 当社独自開発の最適化モデル「N.RISK-OPT」によりポートフォリオ構築を行います。
付加価値の源泉	「N.ALPHA」モデルによる個別銘柄選択が付加価値の源泉です。

## フィデリティ投信株式会社

運用戦略名	フィデリティ・ジャパン・マネージド・グロース
会社概要	<p>フィデリティ投信株式会社は投資信託及び企業年金や機関投資家向け運用商品やサービスを提供しています。1969年に外資系運用会社として初めて本邦に拠点を設け、日本企業の調査を開始。1990年より日本の年金向け運用業務に参入、1995年に証券投資信託委託業務免許を取得し、同年12月に最初の国内投資信託を設定しました。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>個別企業の徹底したファンダメンタルズ分析をベースとしたボトムアップ・アプローチにより、バリュエーションが割安で収益成長に期待が持てる企業を選択し、分散されたポートフォリオを構築します。</p> <p>アナリストによる企業調査・銘柄推奨をもとに、ポートフォリオ・マネージャーが自らの企業訪問・企業分析結果を加味した上で投資対象銘柄を決定し、ポートフォリオを構築します。またバーラによるリスク管理など、定量的な分析も行います。</p> <p>なお、主な銘柄選択のポイントは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収益成長性</li> <li>・経営者の質</li> <li>・相対的に魅力ある株価水準</li> </ul>
ポートフォリオのリスク特性	<p>目標超過収益率：2.0%以上            推定トラッキング・エラー：3.0%～5.0%（目標レンジ）</p>
付加価値の源泉	<p>ボトムアップ・アプローチによる個別銘柄選択を100%としています。</p>

## 株式会社 リそな銀行

運用戦略名	りそな割安株(リサーチ α) /株式口L
会社概要	<p>当社の信託財産運用部門は、1962年に大和銀行(現りそな銀行)の年金運用部門として創設され、以降約50年にわたり国内有数の年金運用会社として活動を行っています。その間、2002年3月に会社分割により大和銀信託銀行(後にりそな信託銀行に社名変更)として一旦独立しましたが、その後2009年4月にりそな銀行と合併し、新たなスタートを切っています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>様々な理由により割安な状況に置かれた株式の中で、それら割安状況の解消が見込める銘柄に投資することで、高い超過収益の獲得を目指すファンドです。一般的に株式市場では有望株や優良株が目立ちますが、当ファンドでは市場から嫌われている銘柄(不人気株、問題を抱えた株)に注目します。これら銘柄は問題点が解消された場合には不人気であった分だけ高いリターンが獲得できると考えています。また、特定のバリュエーションに囚われず、定性的な判断を重視して銘柄選択を行っていますので、万年割安株への投資が回避できるとともに、幅広い相場局面で超過収益の獲得が可能であると考えています。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>収益構造の改革途上にある銘柄中心に投資していることから、財務レバレッジは高くなるケースが多く、企業規模もやや小型に偏っています。また、市場から嫌われている銘柄に注目した投資であることから、モメンタムの低い銘柄の保有比率が高くなる傾向があります。</p>
付加価値の源泉	<p>付加価値源泉としては個別銘柄要因70%、業種要因30%程度とイメージしています。</p>



## スパークス・アセット・マネジメント株式会社

運用戦略名	スパークス日本株式長期厳選投資戦略
会社概要	<p>SPARX は 1989 年7月の創業以来、独立系の投資顧問会社として日本株を中心に企業への個別訪問によるボトムアップ・リサーチを軸に資産運用を行っています。「世界で最も信頼・尊敬されるインベストメント・カンパニー」になるというビジョンのもと、最良のインベストメント・インテリジェンスを投資家に届けることを目指しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>日本の上場株式全てを投資対象とし、長期にわたって保有が可能と考える 10-30 のコア銘柄に投資を行います。SPARX にとって、株式投資とは企業の一部を所有することと同じことであると考えています。創業以来、「マクロはミクロの集積である」という投資哲学の下、個別企業調査が株式投資においてリターンを最大化させると同時に最大のリスクヘッジになると考えています。当戦略では、魅力的な企業には以下のような共通点があると考えています。</p> <p>1. ビジネスモデルがシンプルで理解しやすい、2. 本質的に安全なビジネス、3. 負債が少なくバランス・シートが健全、4. 参入障壁が高いビジネス、5. 平均以上の ROE と安定した利益の成長、6. 短期的な景気動向に左右されずに安定してキャッシュフローを生み出している、7. 有能かつ株主利益を理解した経営陣</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>目標となるトラッキング・エラーや期待収益率はありません。ただし、当投資戦略の代表ファンドにおける年率ベースでの実績トラッキング・エラーは7%程度です。</p>
付加価値の源泉	<p>当戦略の追求するアルファの源泉は全てボトムアップ・リサーチに基づく純粋な個別銘柄選択です。</p>

## 野村アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	日本株式アクティブグロース
会社概要	<p>野村アセットマネジメントは、野村ホールディングス株式会社を持株会社とする野村グループの資産運用会社です。</p> <p>1997年10月、野村証券投資信託委託株式会社(1959年設立)と野村投資顧問株式会社(1981年設立)が合併し、日本を代表する資産運用会社として、早くから運用と顧客基盤のグローバル化に取り組み、海外への積極的な展開を図っています。</p> <p>企業理念として、「最高の付加価値の創造」・「高度な専門性の追求」・「信頼の獲得と社会への貢献」を掲げています。</p>
運用手法の概要・特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆景気循環を乗り越えて高 ROE を維持できる優良企業を特定し、長期投資を行います。</li> <li>◆短期(2~3年)程度の独自の成長機会を有する企業を発掘し、機動的に投資します。</li> <li>◆景気循環・市場環境に依拠せず、上記2つの成長に特化した調査活動により銘柄を選別し、超過収益獲得を目指します。</li> </ul>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク: TOPIX (配当込み) (参考指数 Russell/Nomura Growth インデックス)</p> <p>目標超過収益率: 4% (年率)</p> <p>想定トラッキング・エラー: 8% (年率)</p>
付加価値の源泉	ボトムアップ・リサーチに基づく個別銘柄選択 100%です。

## 大和住銀投信投資顧問株式会社

運用戦略名	年金国内株式市場型
会社概要	<p>大和住銀投信投資顧問は、前身である大和投資顧問、住銀投資顧問、エス・ビー・アイ・エム投信が 1999 年4月に合併し設立。1973 年大和投資顧問設立以来、40 年に亘る投資顧問の歴史を有しております。「アクティブ運用による超過収益の安定的確保」を投資哲学とし、内外株式・内外債券・資産配分型・オルタナティブを運用する総合的な投信投資顧問会社です。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>年金国内株式市場型は、バリュアプローチにモメンタムアプローチを加味したプロダクトです。当プロダクトは、株式運用部ファンダメンタルアクティブグループが運用を行います。銘柄選択の特徴は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バリュアプローチの効果が高いセクターはバリュアプローチを行います。</li> <li>・バリュアプローチの効果が少ないセクターでは、業績の先行指標のモメンタムが良好な銘柄群から、将来の業績の拡大余地の大きい銘柄を選び出します。</li> <li>・修正 PBR、エンベディドバリュアプローチ等、GEM II では計測できない指標が重要なセクターでは、当該指標で判断して割安な銘柄群を選択します。</li> </ul>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク: TOPIX(配当込み)            推定トラッキング・エラー: 上限 10.0%</p>
付加価値の源泉	<p>個別銘柄選択: 70%            業種配分: 30%</p>

## アバディーン投信投資顧問株式会社

運用戦略名	アバディーン日本株式運用戦略
会社概要	アバディーン投信投資顧問株式会社は、英国を本拠地としてグローバルに資産運用業務を展開するアバディーン・アセット・マネジメント・グループの日本法人です。親会社であるアバディーン・アセット・マネジメント PLCは、ロンドン証券取引所に上場し、英国の代表的株式指数である FTSE100 インデックスに採用されています。2014 年 3 月末時点のグループ全体の運用資産額は約 54 兆円(1 米ドル=100 円で換算)です。
運用手法の概要・特徴	<p>企業訪問を通して調査を行うボトムアップ・アプローチを採用しています。日本株式市場の全銘柄の中から、まず「企業の質」の観点から企業分析を行い、独自の投資ユニバースを組成します。次にそれらの銘柄を「バリュエーション」の観点から、徹底的かつ継続的に分析し、厳選したポートフォリオを構築します。</p> <p>日本国内に拠点を置く日本株式運用チームが運用を担当します。ファンド・マネジャーはアナリスト業務にも従事しており、チームの合議制で投資意思決定を下します。アバディーン・グループ全体のリソースも、適宜活用します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	TOPIXをベンチマークとしていますが、ベンチマークと乖離する投資配分となることを厭いません。トラッキング・エラーの実績値は概ね4-10%程度で推移しています。
付加価値の源泉	個別銘柄選択(組入銘柄数は 40 銘柄程度)を付加価値の源泉としています。

## 外国株式部門受賞運用プロダクト概要

### ラッセル・インベストメント株式会社

運用戦略名	ラッセル 外国株式マザーファンド
会社概要	設立：1999年3月9日 資本金：16億950万円 事業内容：金融商品取引業、資産運用コンサルティング業 登録・加入協会：金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第196号、 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 (2014年3月31日現在)
運用手法の概要・特徴	ラッセルは、真に優秀な運用機関はアクティブ運用により付加価値を生み出すことができると考えています。また、優秀な運用機関を評価・発掘し、十分吟味した複数の運用スタイルに分散投資し、個別運用機関やポートフォリオ全体を継続的にモニタリングすることにより、安定的な収益の実現が可能になると考えています。 異なる運用スタイルを持つ運用機関を最適な割合で組み合わせるマルチ・マネージャー運用により、超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図りつつ、超過収益への貢献度が高い銘柄選択において、各運用機関の特性を最大に活かせるよう運用します。
ポートフォリオのリスク特性	特徴のある運用手法を最大限生かすため、それぞれの運用機関には高いトラッキング・エラーを許容する一方、補完性のある手法(リターンに負の相関がある)を組み合わせることで、ファンド全体のリスクの軽減を図ります。
付加価値の源泉	個別銘柄選択：70-85% 業種選択：0-5% 国別配分：15-25% これらの想定割合は、組入れた運用機関が、独自の判断に基づく運用の結果としてとっている一般的なリスクの集積を想定したものです。

## ウエリントン・インターナショナル・マネージメント・カンパニー・ ピーティーイー・リミテッド

運用戦略名	グローバル・オポチュニティーズ(除く日本)
会社概要	ウエリントン・インターナショナル・マネージメントは、米国最大級の独立系投資顧問会社であるウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー(WMC)の関連有限責任会社として 1995 年に設立されました。WMC は従業員保有による非公開パートナーシップ制を採用し、資産運用を唯一の業務としています。2014 年 3 月現在、グループ全体の運用資産は約 8,686 億米ドル(約 89 兆円)に達しております。
運用手法の概要・特徴	グローバル・オポチュニティーズ(除く日本)は、企業が保有する資産の真の収益率と投下資本利益率の改善に着目したグローバル・コア・アプローチとして定義されます。運用プロセスではファンダメンタル調査を重視し、銘柄選択は特定の投資スタイルに偏向せず機動的に行います。ポートフォリオは短期的にはベンチマークに対してグロースまたはバリュエの傾向を示しますが、恒常的あるいは意図的なスタイル傾向は、長期的にはありません。
ポートフォリオのリスク特性	投資目的は、3~5 年の投資期間において、MSCI コクサイ指数に対し年率 2%(報酬控除前)以上のリターンをあげることです。トラッキング・エラーの目標値は設定しておりませんが、Barra モデルで通常年率 3~6%程度の水準になることを想定しています。
付加価値の源泉	当運用はボトムアップ・アプローチによる銘柄選択を實踐しており、国別配分およびセクター配分はボトムアップの銘柄選択プロセスの結果です。事後的な分析では超過収益の概ね 30%が国別およびセクター配分に帰する部分であると考えています。

## 三菱UFJ信託銀行

運用戦略名	外国株式 第 202 ファンド(グローバルコア型)
会社概要	<p>三菱UFJ信託銀行は、企業年金分野で培ってきた専門性やノウハウをもとに、企業年金制度の設計から資産運用・管理まで総合的なサービスを提供しています。</p> <p>また、当社では本邦最大級の資産運用機関として、国内外の株式や債券等の運用商品で運用実績や商品性の向上を図るとともに、市況の変化や顧客の運用ニーズを踏まえた商品の開発・提供に取り組んでいます。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>当社外国株式における提携先である英国ベイリーギフォード社の投資助言に基づくグローバル運用プロダクトです。</p> <p>短期的な株価動向を予測するのではなく、個々の企業におけるファンダメンタルズ分析による個別銘柄選択を重視します。利益やキャッシュフローの成長を重視した銘柄選択を行うことで中長期での超過収益を狙います。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>推定トラッキング・エラー：5.0%以下            * ベンチマーク：MSCI-KOKUSAI インデックス(円ベース、税引前・配当込)</p>
付加価値の源泉	銘柄選択：100%

## 外国債券部門受賞運用プロダクト概要

### ラッセル・インベストメント株式会社

運用戦略名	ラッセル 外国債券マザーファンド
会社概要	設立：1999年3月9日 資本金：16億950万円 事業内容：金融商品取引業、資産運用コンサルティング業 登録・加入協会：金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第196号、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 (2014年3月31日現在)
運用手法の概要・特徴	ラッセルは、真に優秀な運用機関はアクティブ運用により付加価値を生み出すことができると考えています。また、優秀な運用機関を評価・発掘し、十分吟味した複数の運用スタイルに分散投資し、個別運用機関やポートフォリオ全体を継続的にモニタリングすることにより、安定的な収益の実現が可能になると考えています。異なる運用スタイルを持つ運用機関を最適な割合で組み合わせるマルチ・マネージャー運用により、金利予測、満期構成、債券種別選択、国別配分、通貨配分、個別銘柄選択といった債券運用における超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図り、リスクをコントロールしながら超過収益の獲得を目指します。
ポートフォリオのリスク特性	特徴のある運用手法を最大限生かすため、それぞれの運用機関には高いトラック・エラーを許容する一方、補完性のある手法(リターンに負の相関がある)を組み合わせることで、ファンド全体のリスクの軽減を図ります。
付加価値の源泉	デュレーション：35% イールドカーブ：15% 通貨配分：20% 債券種別選択：20% 個別銘柄選択：10% これらの想定割合は、組入れた運用会社が、独自の判断に基づく運用の結果としてとっている一般的なリスクの集積を想定したものです。



## ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社

運用戦略名	外国債券アクティブ運用
会社概要	<p>ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント(以下 GSAM)は、ゴールドマン・サックスの資産運用部門として、1988年に設立されました。設立以来、大規模な買収等を行うことなく運用資産残高を伸ばしてきており、2013年12月末現在、世界約30拠点に1,900名超の社員を配し、世界の機関投資家、政府系機関、個人投資家向けに84兆8,853億円(8,076億米ドル、105.105円にて換算)の資産を運用しております。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>外国債券および通貨を投資対象とする多戦略型アクティブ運用です。付加価値の源泉を幅広く分散し超過収益機会の最大化を目指す一方、独自開発のリスク管理手法によるリスク管理を行い、長期的に安定的な超過リターンを獲得を目指します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>目標トラッキング・エラーは年率150bps程度。</p>
付加価値の源泉	<p>①デュレーション/イールドカーブ戦略、②国別配分戦略、③通貨配分戦略、④セクター配分戦略、⑤個別銘柄選択(国債/政府系機関債、MBS/ABS、投資適格社債等)</p>

## ピムコジャパンリミテッド

運用戦略名	ピムコ外国債券運用
会社概要	<p>PIMCO グループは 1971 年に設立された、グローバルに運用拠点を構える世界最大級の債券運用残高を有する運用会社です。</p> <p>2014 年 3 月末時点の PIMCO グループの受託資産残高は約 1.54 兆ドル(アリアンツ・グループ関係会社からの受託残高を除く)となっており、日本における受託資産額は約 8 兆 6250 億円にのびります。</p>
運用手法の概要・特徴	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) コアアプローチ: ベンチマーク並みにリスクをコントロールした上で、超過収益をあげることを目標とします。</li> <li>2) 短期的な売買に依らない、長期的なファンダメンタルズを重視した運用を行います。</li> <li>3) 超過収益源泉を可能な限り分散することで、特定の付加価値源泉から来るマイナスがポートフォリオ全体に大きな影響を及ぼさないような運用を志向します。</li> <li>4) 多様な超過収益源泉を取得することから来る、多様なリスクを管理するリスク管理システムで意図しないリスクの排除を目指します。</li> </ol>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマークであるシティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)に対して、年率 1.0-1.5%の超過収益を報酬等控除前で達成することを目標としています。</p> <p>また、推定トラッキング・エラーは最大で年率 2-3%で管理することを目標とします。</p>
付加価値の源泉	<p>中長期的に、トップダウン(デュレーション、イールドカーブ、通貨)戦略 50%、ボトムアップ戦略(セクター、銘柄選択、裁定取引)50%の比率で付加価値を実現することを目標とします。</p>

## 国内債券部門受賞運用プロダクト概要

### 日興アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	日興AM日本債券クレジット特化戦略
会社概要	<p>日興アセットマネジメントは、1999年4月、日興証券投資信託委託株式会社と国内外の年金運用で高い実績を誇る日興国際投資顧問株式会社が合併、発足し、50年超の歴史を有します。2013年12月現在、英国、米国、シンガポール、香港等海外現地法人等を含む従業員総数は約1,200名を擁し、17兆円を超える受託資産残高を運用しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>個別銘柄選択と種別配分を組み合わせるポートフォリオを構築し、超過収益の獲得を追求します。</p> <p>個別銘柄選択では、変化の兆候を早期に察知し投資に反映させることに主眼を置きます。具体的には、ルーザー銘柄排除の徹底による「守り」と潜在的なリスクを可視化しリスクを取る「攻め」による銘柄選択を行います。</p> <p>種別配分では、クレジットファンダメンタルズ バリュエーション、需給を中心とした分析を行います。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>金利リスクをベンチマーク(NOMURA-BPI 総合)程度とし、クレジットリスクに特化します。</p>
付加価値の源泉	<p>信用リスク:種別配分、及び個別銘柄選択</p>

## 明治安田アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	日本債券アクティブ
会社概要	<p>明治安田アセットマネジメントは、2010年10月、MDAMアセットマネジメント(旧明治ドレスナー・アセットマネジメント)と安田投信投資顧問が合併し発足した資産運用会社です。</p> <p>明治安田生命グループの中核の資産運用会社として、高品質の資産運用サービスの提供を目指しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>NOMURA-BPI 総合指数をベンチマークとし、これを上回る投資成果を目指します。</p> <p>債券運用においては、トップダウンリサーチによる金利の水準・期間構造の変化を生み出す中期的なマクロ経済トレンドの分析・予測に重点を置き、アクティブなデュレーションの変更、イールドカーブ戦略等により付加価値の追求を行います。一方で、短期的なファクターによる市場リスク増大に対しても迅速に対応することで収益率向上を図ります。</p> <p>クレジット戦略では、クレジット・サイクル分析(種別選択)とアナリストによる信用力分析(個別銘柄選択)が投資判断の基準となります。信用力分析では償還までの保有が可能であることを最重要事項としながらも、ファンド管理上は流動性リスク等へも配慮した戦略運営を行っています。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク: NOMURA-BPI 総合</p> <p>目標超過収益率: 0.5% (年率)</p> <p>推定トラッキング・エラー: 0~1.5%</p>
付加価値の源泉	<p>金利選択(デュレーション+イールドカーブ: 70%)</p> <p>クレジット戦略(種別構成選択+銘柄選択: 30%)</p>

## 三井住友信託銀行

運用戦略名	事業債(積極)型/S45
会社概要	三井住友信託銀行は、年金信託・証券信託の各種商品を通じて、受託資産運用・年金制度管理などの各業務分野においてサービスを提供しております。
運用手法の概要・特徴	ファンドマネージャーによるトップダウン分析とクレジットアナリストによるボトムアップ分析を融合したスプレッド戦略をベースとした債券種別調整・個別銘柄選択によってベンチマークを上回る収益率を目指します。クレジット市場のコンディション、セクター・個別銘柄の魅力度の比較、スプレッド期待リターン・リスク、クレジットリスクの分析を重視し、イグジットを見据えたセクター・個別銘柄の分散を確認・検討したうえでポートフォリオを構築します。
ポートフォリオのリスク特性	デュレーション、残存期間別構成比をベンチマーク(NOMURA-BPI 総合)並に維持します。また、個別銘柄の信用リスクについては主要格付会社のいずれかの格付が BBB 一格以上とします。
付加価値の源泉	付加価値の源泉は個別銘柄選択(種別セクター戦略を含む)100%と考えています。

## 国内株中小型部門受賞運用プロダクト概要

### パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

運用戦略名	パインブリッジ日本小型株式
会社概要	<p>パインブリッジ・インベストメンツ株式会社は、機関投資家および個人投資家に対し、上場株式、債券、プライベート・エクイティ戦略等の多様な投資商品とサービスをグローバルに展開するパインブリッジ・インベストメンツ・グループの日本法人です。世界 21 カ国に広がるグローバル・ネットワークを通じて、幅広い運用ソリューションの提供を目指しています。2014 年 3 月末現在、グループ全体の運用資産残高は、約 714 億ドルとなっています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>グロースかバリューかどちらかのスタイルが長期にわたり優位性を保ち続けることはないとの考えのもと、グロースとバリュー双方の銘柄を評価し、投資を行います。</p> <p>また一つの企業分析尺度を全ての企業に適用することはできないと考えているため、企業の成長段階によって異なる尺度からの分析を行い、銘柄の発掘を行います。そのため、当社では投資ユニバースを 4 つの categories に分類し、各 categories に最適な分析を定性・定量両面から実施し、投資機会を追求します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク: MSCI ジャパン・スモールキャップ・デイリー・トータル・リターン・ネット・インデックス</p> <p>目標収益率: 年率 2.5% (運用報酬控除前)</p> <p>推定トラッキング・エラー: 年率 8%~15%</p>
付加価値の源泉	<p>個別銘柄選択を付加価値の源泉と考えています。</p>

## イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

運用戦略名	イーストスプリング日本小型株式
会社概要	イーストスプリング・インベストメンツは 1848 年英国で発足以来 160 年にわたりグローバルに金融サービスを提供している、英国プルードンシャルグループの一員です。イーストスプリングの運用拠点はシンガポールを中心に世界の 14 の国や地域でビジネスを展開しており、アジア投資における運用力を強みと位置づけています。
運用手法の概要・特徴	<p>運用プロセスの 4 つの手順</p> <p>1) 投資アイデアの創出:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミス・プライシング銘柄を体系的にスクリーニング</li> <li>・株価が極端に割安の状況を、最大の投資機会と認識</li> </ul> <p>2) ファンダメンタルズ分析:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バリューの存在を確認</li> <li>・投資判断に対する理解を深め、確信度を検証</li> <li>・運用プロセスの 80% の時間と労力を費やす重要なステップ</li> </ul> <p>3) ポートフォリオ構築:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>i) リスクと期待リターンを把握し、モニタリング</li> <li>ii) リサーチ結果をポートフォリオに反映させレビューを実施</li> </ol> <p>4) リスク・コントロールおよびレビュー:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的フィードバックによるリバランス機会の提供</li> <li>・週次でのレビュー(全ポートフォリオをチームで精査)</li> <li>・チームが全ての投資成果に責任を持つ</li> <li>・ポートフォリオ毎の運用戦略とポジションの整合性の検証</li> <li>・運用プロセスの一貫性を確認</li> </ul>
ポートフォリオのリスク特性	<p>参考ベンチマーク Russell Nomura Mid-Small Index</p> <p>推定アルファ 2.0%~4.5%</p> <p>推定トラッキング・エラー4.0%~9.0%</p>
付加価値の源泉	<p>1) 投資アイデアの創出 2) ファンダメンタルズ分析 3) ポートフォリオ構築 4) リスクコントロールとレビュー</p>

## 三井住友アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	三井住友アセットマネジメント国内株式中小型
会社概要	<p>三井住友アセットマネジメント(SMAM)は、2002年12月に三井住友系保険会社3社と三井住友銀行の運用子会社が合併し誕生しました。「リサーチこそが付加価値の源泉」であるとの信念の下、業界最大級のリサーチ体制を構築しています。リサーチに基づく特徴あるマルチプロダクトを提供することにより、顧客の多様なニーズに対応します。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>当ファンドは、ボトムアップ・リサーチにより割安で成長性のある中小型株銘柄に投資するものです。</p> <p>独自の投資視点「Gro-Val Cha-In (Growth、Value、Change、Information)」を活用し、魅力度の高い銘柄を発掘します。</p> <p>リサーチについては企業への直接取材を行いません。</p> <p>3名のファンドマネージャーが年間1000社を超える取材活動をこなすことで、経営者の生の声や直近の情報をタイムリーに入手します。ミーティングはワン・オン・ワン形式を中心に行うことから、経営者との直接面談を通じて、企業の「本質」を把握することが可能と考えています。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク：TOPIX(配当込み) スタイルインデックスの対応も可能です。</p> <p>目標トラッキング・エラー：特に設定していません (BARRAベースで推定10～15%程度の水準)。</p>
付加価値の源泉	<p>個別銘柄選択を付加価値の源泉として考えています。</p>



## 重要事項

本文書には、マーサー(Mercer LLC 及びその関係会社を含む)の秘密情報及び専有情報が記載されており、マーサーが定めた当事者以外は使用することはできません。本文書の内容の全部又は一部を、マーサーの書面による事前許可を得ることなく修正したり、販売したり、又は他の個人若しくは組織に提供したりすることはできません。

本文書で明示される所見、評価、又は意見は、マーサーの知的財産であり、予告なく変更される場合があります。これらは、検討対象の投資商品、資産クラス、又は資本市場の今後の運用実績に関し、何らかの保証を付与することを意図するものではありません。また、過去の運用実績は、今後の結果を保証するものでもありません。マーサーのレーティングは、個別の投資助言ではありません。

本文書にはお客様の個別の状況を考慮した投資助言は記載されておられません。予め適切な専門家の助言を得ることなく、又はご自身の状況を考慮することなく、本文書の情報のみに基づいて投資決定を行なうべきではありません。

本文書に記載されている情報は、第三者によるさまざまな情報源の中から得られたものです。本文書の情報が信頼できるものであると見なされる限りにおいては、マーサーは独自に当該情報の検証を試みことはありません。したがって、マーサーは提供された情報の正確さに関する表明、保証を行なうことはなく、いかなる第三者によって提供されたデータの誤記、脱漏、誤りに関し、いかなる責任(間接的、派生的、付随的損害を含む)も負いません。

© 2014 Mercer LLC 無断転載禁ず。